品川区総合戦略素案(案)へのパブリックコメント

期間:平成27年11月11日～25日(15日間)

意見提出者数:3名

区民の皆さまからいただいたご意見と区の回答一覧

全体	1 件
基本目標1 「安心して子どもを生み、楽しく子育てができるまちをつくる」	8 件
基本目標2 「地域を支える産業の活力を高め、魅力ある雇用の場を創出する」	2 件
基本目標3 「国際化への対応をさらに進めつつ、多様な地域との交流・連携を推進し、ともに発展する」	6 件
基本目標4 「生涯にわたり住み続けたい安心と活力のあるまちをつくる」	4 件
その他	5 件
合計	26 件

※お寄せいただいたご意見のうち、複数の分野に該当するものは分割して掲載しています。

平成28年4月

品川区企画部

番号	ご意見	区の考え方
「全体」に関するご意見		
1	全体的に分かりやすく、理解・納得の得られる素案であると思う。品川区と区民の協働作業の手法は、地方自治体として大変優れた展開方法であり、良い成果を上げると考える。	今後も、区民の方々が区に一層の誇りと愛着を持ち、住み続けたいと感じ、さらに、区外にお住まいの方々が品川区への興味を抱き、訪れ、住んでみたいと思えるまちを、区民や関係団体の皆さまとともに作り上げてまいります。
基本目標1「安心して子どもを生み、楽しく子育てができるまちをつくる」に関するご意見		
2	出生率が全国平均を下回っていて、全国平均と同等の目標1.4では、品川区は子供を育てやすい街として数値が低すぎる。	いただいたご意見や総合戦略策定委員会での議論を踏まえ、基本目標の数値を修正いたしました。
3	品川区に定住を希望する理由として、「子どもを育てやすい」と回答する区民の割合が50%では、目標が低すぎる。	ご意見として承ります。
4	子どもをできる限りともに育てているという環境作りが必要である。コミュニティスペースやほっとサロンなどは寄合処としてなくてはならないと感じている。更なる利用と充実を期待するとともに、より身近な存在となるよう開設の場も広げてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ほっとサロンにつきましては、高齢者や子育て世代の身近な地域交流の場として重要な役割を担っており、閉じこもりの予防や子育てに関する不安の解消、情報交換の場としてもその効果が期待されます。区といたしましても、品川区社会福祉協議会と連携しながら、支援の充実を図ってまいります。 ・児童センターの「親子サロン」など、親子で自由に利用でき、子育ての情報交換や相談、仲間作りなどの保護者が交流できる場についても、引き続き、充実してまいります。
5	ワーク・ライフ・バランス啓発講座で、100人に啓発しても意味がない。少なすぎる。品川区内の企業に推進を啓蒙したり、駅前街頭演説でもしないとたくさんの人に広く伝わらない。	ワーク・ライフ・バランス啓発の効果的な手法につきましては、ご意見を参考とさせていただきます。
6	中小企業ワーク・ライフ・バランス推進支援の配偶者出産休暇制度を導入した企業数の目標数値が30企業では、目標が低すぎる。	品川区では、配偶者出産休暇制度を導入し、従業員がその制度を利用した企業に対し、10万円の奨励金を交付しております。企業数につきましては、年間5社とさせていただいておりますが、企業数の増加につきましては、今後の導入状況などを踏まえ、必要性について検討させていただきます。
7	英語教育の推進や体力向上事業の推進は、小中一貫でなくても実施できる。目標に校数を限定する時点で、品川区の学校に格差を生むのではないか。	英語教育の推進および体力向上事業の推進につきましては、モデル校での実施方法の検討・検証を踏まえ、平成29年度の全校展開に向け準備を進めてまいります。
8	学校ICTの導入も格差を生まないように中途半端に導入するのはやめるべきである。全校にやるのか、やらないのか考えるべきである	<p>プロジェクト等ICT機器の導入につきましては、モデル校での実施方法の検討・検証を踏まえ、平成29年度の全校展開に向け準備を進めてまいります。</p> <p>なお、タブレット端末の配備につきましては、特別支援教育における活用および小規模校への支援と位置付け、活用方法の更なる検討を進めてまいります。</p>
9	すまいるスクールの地域ボランティアの登録者数が、平成26年から平成31年にかけて18人しか増やせていないのは、目標として少なすぎる。	すまいるスクールでは、地域ボランティアの方々に教室の講師としてご協力いただいております。人数やプログラムの内容は、地域や学校の状況により異なります。今後も子どもたちにとって、魅力があり、楽しめるプログラムを充実させてまいります。

番号	ご意見	区の考え方
基本目標2 「地域を支える産業の活力を高め、魅力ある雇用の場を創出する」に関するご意見		
10	品川産業支援交流施設は待ち望んでいた産業支援交流の施設であり、その存在が多くの方々に周知されていないので、広報等をさらに深め、広め、伝えてほしい。	品川産業支援交流施設につきましては、様々な機会を捉えて、施設のPRに努め、利用会員数の増加や支援の充実を図ってまいります。
11	創業支援センターもより身近な存在として、数カ所の増設と細やかな支援体制、それに伴う区内事業展開へのアドバイス、支援等をますます充実させてほしい。	創業支援センターについては、増設の予定はございませんが、品川産業支援交流施設とも連携を図りながら、支援の充実に向けてまいります。
基本目標3 「国際化への対応をさらに進めつつ、多様な地域との交流・連携を推進し、ともに発展する」に関するご意見		
12	東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成で、平成30年度に区内実施競技の周知度が80%以上では、5人に1人が知らない目標になるが、区の考え方を聞きたい。	東京オリンピック・パラリンピックの開催年となる2020年(平成32年)にはすべての区民に区内実施競技を知っていただけるよう、周知活動の充実を図ってまいります。
13	オリンピック・パラリンピックに向けてまたそれ以降の持続的発展を目標として、しながわJAPAN(TOKYO)を世界に広めていきたい。そのためにも全区民(企業を含む。)参加のおもてなし体制の確立を目指すべきである。	個別の事業につきましては、今後の施策推進のための参考とさせていただきます。
14	旧参議院五反田分室について、少なくともオリンピックまでの間だけは行政として借り入れて、お休み処として活用してはどうか。	ご意見として承ります。
15	愛着のもてる地域ブランドの創出について、品川の土産はそもそもどこで買うべきか分からない。せめてアトレ大井町・阪急や品川駅構内に土産を購入できる場所を出店すべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25～27年度のしながわみやげコンペティションにおいて、「しながわみやげ」認定品59点を選定いたしました。平成27年度の認定品については、広報しながわ12月11日号でご紹介するとともに、しながわ観光協会のホームページに掲載しています。また、3年間のすべての認定品を紹介するパンフレットを発行し、しながわPLAZAなどの観光案内所で配布しています。 ・アトレ大井町等での販売につきましては、ご意見として承ります。
16	早川、山北などとの地域交流連携を進めるにあたり、二地域居住を推進してほしい。空家古民家を借りる(あるいは購入する)ことも検討してほしい。地方との交流支援体制を充実してほしい。	二地域居住に対するご意見につきましては、今後の施策推進のための参考とさせていただきます。また、地方との交流・連携につきましては、特別区全国連携プロジェクトを通じ、区と地方との相互の地域の活性化・発展につながる取り組みを進めてまいります。
17	JR大井町駅の高速バスは、現状維持なのか。	JR大井町駅の高速バスにつきましては、現時点で、事業者からは新たな路線を設置するなどの予定は聞いておりません。利便性の向上につきましては、引き続き、事業者に働きかけてまいります。

番号	ご意見	区の考え方
基本目標4 「生涯にわたり住み続けたい安心と活力のあるまちをつくる」に関するご意見		
18	品川区に住み続けたいと思う区民の割合が現在の90.9%に対して、90%以上では目標が低すぎる。	ご意見として承ります。
19	町会・自治会の活動紹介リーフレットについては、自治会数13地区で限定すべきではなく全てに対応すべきである。	町会・自治会の活動紹介リーフレットについては、13地域センターの各地区ごとに順次、発行し、区内の全地域に対応した内容とする予定です。
20	救急医療体制の充実について、受診人数が現状維持である理由をきちんと説明すべきである。	過去の実績を踏まえて、休日・夜間の受診人数を指標としておりますが、救急医療体制の充実を図り、区民の皆さまの不安を解消することが重要であり、受診する区民の方は増加すべきでないとの考えにより、平成27～31年度の受診人数を同数としております。
21	地域の歴史の継承は、お年寄りに説明するだけにならないか。区内の小中学校全校に啓蒙するような積極的な活動を期待する。	地域の歴史の継承のため、区立学校の地域学習等において、「品川区史2014」を活用してまいります。
「その他」に関するご意見		
22	世代間を超えて集い、学び、笑顔と安心なまちづくりに寄与していくためにも、公園を農作業の場として活用できるよう、検討してほしい。	ご意見として承ります。
23	現在進行中の再開発、インフラ整備が5年後を見据えて何も考えられていないと思われる。 ・大井町駅、荏原町、武蔵小山などの駅前再開発の進行早期化	・品川区総合戦略におきましては、将来的な人口減少を見据え、生産年齢人口を維持し、安定的な人口構造を確保するため、品川区長期基本計画に定める施策の中から、平成27～31年度の5年間で、特に重点的に推進すべき施策を位置付けております。 ・大井町駅、荏原町、武蔵小山などの駅前再開発事業につきましては、品川区長期基本計画および品川区総合実施計画に基づき、着実に進めてまいります。
24	現在進行中の再開発、インフラ整備が5年後を見据えて何も考えられていないと思われる。 ・補助26号など道路インフラの工事早期化、影響する周辺の開発の停滞解消	道路整備事業につきましては、品川区長期基本計画および品川区総合実施計画に基づき、着実に進めてまいります。また、補助26号線などの東京都が施行する路線につきましても早期化を求めてまいります。
25	現在進行中の再開発、インフラ整備が5年後を見据えて何も考えられていないと思われる。 ・JR広町社宅跡地などゴースタウン化の解消	JR広町社宅跡地の活用につきましては、区とJR東日本が共同で、当地の開発構想についての検討を進めています。引き続き、地権者であるJR東日本と協議し、区を中心核としてふさわしいまちづくりを進めてまいります。
26	現在進行中の再開発、インフラ整備が5年後を見据えて何も考えられていないと思われる。 ・羽田空路変更による不安解消	羽田空港の機能強化に伴う飛行ルートの変更につきましては、国の責任において、地域の皆さんの不安を取り除き、理解を深めていくことが重要であると考えておりますので、引き続き、国に対してしっかりと説明を求めてまいります。